



東光寺だより

寺報

令和七年十二月一日 発行

静岡市清水区谷田
曹洞宗 谷田山東光寺

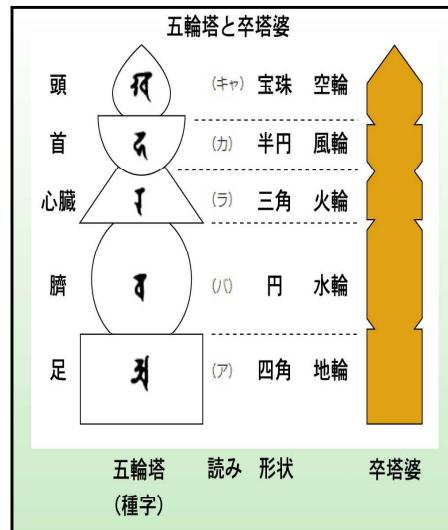
臘八摂心～坐禪三昧の修行～

永平寺では僧侶たちが、十二月一日から八日まで臘八摂心（ろうはつせつしん）という坐禪修行を行います。十二月八日はお釈迦さまが菩提樹の下でお悟りを開いた成道の日であり、中国の陰暦ではこの日を臘月（臘月八日）といいます。中期間中は、早朝から就寝まで食事と排泄以外坐禅三昧の日々を過ごします。



を境込に がうかけ 出つい まし八平寺現住職も三十五年前、
覚のんはそでになるたさめ僧堂に安宿した際の季節に修行を行ひに
え変だ、れき集か行だれ続ましの事に、心の間をなむと
て化故坐でま中摂為ひます。情が眼で見暗
おりがに禪もせし心でたす。たれに目しる葉が坐
あつら修八んてのしす こる打のたこのよな続
あります。たれに目しる葉が坐
は墓 満を水のう 極
成地こに表、宇の板め仏
仏での具し火宙は塔て典
のよ五足て、觀才婆功に
姿く輪しい風のリの徳も
と見をてまの事ン上の一
さら形いす四でピ部大塔を
されのる。大、ツはきなた
てる上の仏と世ク五なた
い五でで性、世の輪供て
ま輪象一・そを輪の養て
す塔徵輪法の構の形と供
。的性四成事をさす
すにとが大しでしれす
。表い、はてはててべし
特しう五空いないます
にたの大でるく、あります
密のでのあ五
教がすする要古
で、。べと素代五輪
は現五在輪も
円事

大聖釈迦如來成道御和讚 一番
師走の八日 朝まだき
菩提の葉風 爽やかに
心の闇を 扱われし
自覺（めざめ）の主は釈迦世尊



塔婆と言えば一般的にはお墓に建てる卒塔婆を意味します。元々は古代インドの土埋めじゅうに盛り上げたお墓のことでした。語源は梵語のストゥーバリでは塔を重視します。日本では、聖徳太子によつて四天王寺境内に建てる五重塔が最初だと言われています。平安時代に建てるようになり、鎌倉時代になると板塔婆が供養として塔院の五重塔から転じて、墓地に亡き人



令和七年十二月一日から
令和八年四月二十六日まで

雑巾ご寄付のお願い

令和八年四月の大本山永平寺焼香師団体参拝の募集中は九月末日で締め切らせて頂きました。おかげさまで、総勢四十二名のお申し込みを頂くことができました。永平寺の雲水（修行僧）が毎日のお清掃で使用する雑巾（ぞうきん）のご寄付にご協力をよろしくお願い申します。ご寄付頂いた雑巾は、団体参拝の際に永平寺に納めさせて頂きます。

【受付期間】



「師を越えてこそ、法を驕くに得たり」日々精進致します。(康仁)

お施主様のために何が出来るかを常に考え、行じて参ります。(泰平)

初心を忘れず、修行に励んで参ります。(龍尊)

日々を大切に、頂いた配役を努めて参ります。(慈玄)

一座一座丁寧に、法要に臨みます。(舍行 洪那)

(祠堂殿接司 陽俊)

お施主様の気持ちに寄り添い、法要を行つて参ります。

しているのだと肝に銘じ、誠心誠意、法要に努めて参ります。

ご納骨など、大切な節目に際して永平寺に来山され、法要に参列して毎日、追善供養等の法要が行われます。施主の方々がお年忌やされた信徒の方々のお位牌やご遺骨をあずかっております、修行僧にてお祠堂殿では、全国から永平寺にて永代供養をして欲しいと願わ



永平寺月刊誌「金松」令和七年十月号掲載記事(後列左端が当山徒弟)

前号でお伝えしたように当山徒弟、至誠泰平は、今年の春に上山し、五月一日に正式な修行僧「雲水」となりました。七月十七日に行われた三回目の転役により祠堂殿(しどらでん)といふ寮舎に移りました。この寮舎では毎日、参詣者から依頼された追善供養等の法事を行います。されどこの寮舎が掲載されましたので紹介いたします。

徒弟泰平の近況